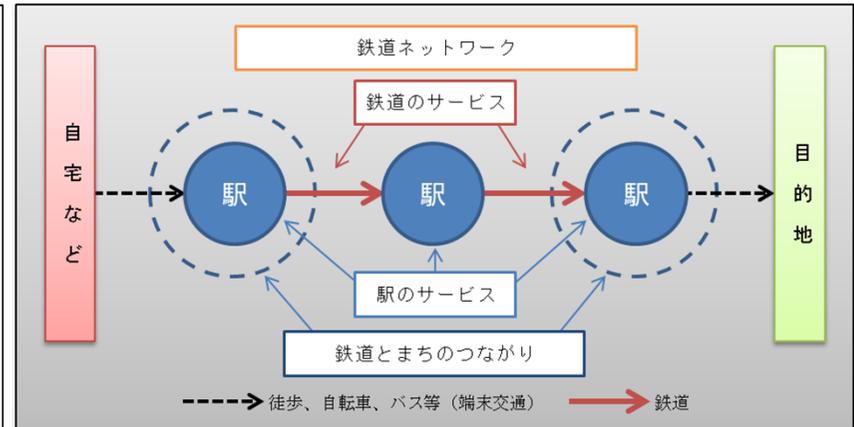
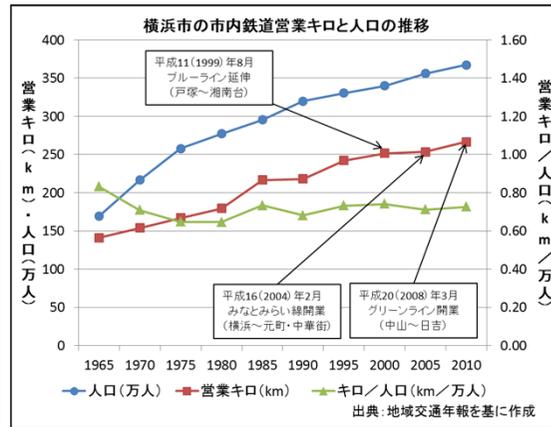
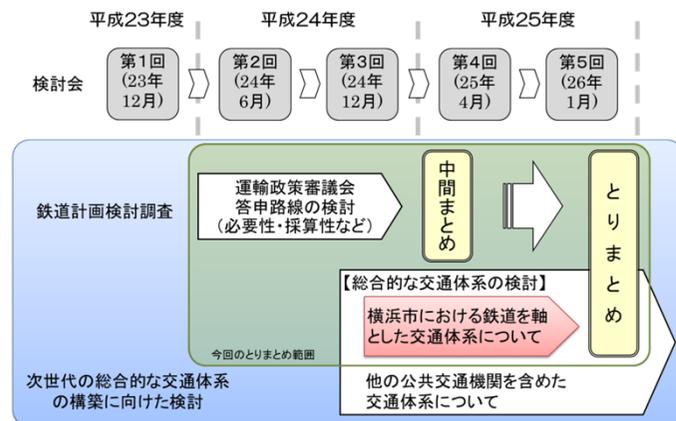


○次世代の総合的な交通体系の構築に向けた検討の概要

横浜市中期4か年計画(2010～2013)に掲げられた施策である「交通ネットワークの充実による都市基盤の強化」の中で「次世代の総合的な交通体系の構築に向けた検討」が位置付けられました。交通は様々な分野と関連するものであり、検討を進めるためには幅広く助言をいただく必要があることから、学識経験者や関係機関の職員などで構成する「次世代の総合的な交通体系検討会」を開催して検討を進めてきました。

平成25年4月に運輸政策審議会答申路線に関する中間まとめを行い、このたび「鉄道を軸とした交通体系」について、横浜市としてとりまとめを行いました。他の公共交通機関を含めた交通体系については、引き続き横浜市のまちづくりなどと合わせて検討を行います。

- 横浜市都市計画マスタープラン(平成25年3月)で示した都市づくりの目標では、「誰もが移動しやすく環境にやさしい交通の実現」を示し、都市交通の方針では「体系的な道路ネットワークの整備」、「鉄道ネットワークの整備促進」などを示しています。
- 横浜市は鉄道網の拡充とともに発展してきた都市といえます。そこで、様々な交通手段の中でまず「鉄道」に着目し、横浜市における鉄道を軸とした交通体系について方向性をまとめました。
- 自宅などから目的地までの鉄道を軸とした移動を「鉄道ネットワーク」「鉄道のサービス」「駅のサービス」「鉄道とまちのつながり」の4つの要素に分類し、13の方向性を整理しました。
- 重点的取組として、「より充実した鉄道ネットワークの構築」に取り組みむとともに、「駅の拠点性向上やまちづくりとの連携」について、引き続き継続して取り組みます。



都市計画マスタープランで示した都市づくりの目標

- 【目標①】 超高齢社会や将来の人口減少社会に対応できる「集約型都市構造」への転換と、人にやさしい「鉄道駅を中心としたコンパクトな市街地」の形成
- 【目標②】 地球温暖化やヒートアイランド現象の緩和に向けた、エネルギー効率のよい低炭素型の都市づくり
- 【目標③】 首都圏全体の発展をけん引するとともに、国際競争力を高めるための基盤づくり
- 【目標④】 地域特性に応じた、計画的・効率的な土地利用と地域まちづくり
- 【目標⑤】 誰もが移動しやすく環境にやさしい交通の実現
- 【目標⑥】 横浜らしい水・緑環境の実現と、都市の魅力を生かしたまちづくり
- 【目標⑦】 震災や風水害などの自然災害に強い、安全安心のまちづくり

鉄道を軸とした移動に伴う4つの要素と13の方向性

- ☆鉄道ネットワーク
 - ①都市構造の変化を促す鉄道ネットワークの構築
- ☆鉄道のサービス
 - ②利便性の高い移動サービスの提供
 - ③広域交通ネットワークへのアクセス向上
- ☆駅のサービス
 - ④安全で安定した移動サービスの提供
 - ⑤快適な移動サービスの提供
 - ⑥災害に強い移動サービスの提供
- ☆鉄道とまちのつながり
 - ⑦誰もが利用しやすい駅への改善
 - ⑧安心して利用できる駅への改善
 - ⑨利便性・快適性の高い駅への改善
 - ⑩駅周辺のまちづくりとの連携
 - ⑪鉄道とバス等との乗り換え利便性の向上
 - ⑫環境にやさしい公共交通の利用促進
 - ⑬都市観光を支える交通インフラの整備

重点的取組

より充実した鉄道ネットワークの構築

- 【拠点間を結ぶ路線の整備】
- ・ 神奈川東部方面線の整備推進(事業中)
 - ・ 高速鉄道3号線の延伸、横浜環状鉄道等の事業化検討

- 【広域的な交通基盤への対応】
- ・ 羽田空港アクセスのさらなる強化
 - ・ 新幹線駅アクセスのさらなる強化

今回「取組の方向性」を示す範囲(裏面参照)

駅の拠点性向上やまちづくりとの連携

- 【駅及び駅周辺の機能強化やまちづくり】
- ・ 交通結節点としての駅改良と機能の強化
 - ・ 環境や観光など都市の価値向上への取組
 - ・ 次世代につながる「交通とまちの連携」
 - ・ 新たな拠点再生手法の検討

今後も引き続き継続して取り組みます。

【重点的取組】より充実した鉄道ネットワークの構築

【拠点間を結ぶ路線の整備】

高速鉄道3号線の延伸（あざみ野～新百合ヶ丘）

- 横浜市と川崎市の拠点を結び、広域的な首都圏の鉄道ネットワークの一翼を担う路線になります。
- 東京都心方面と神奈川県東部を結ぶ鉄道路線を短絡し、災害等による輸送障害発生時の代替経路が確保されます。
- 川崎市北部・多摩地域と横浜・新横浜を乗り換えなしでつなぐことにより、新幹線駅（新横浜）や空港（羽田）へのアクセスが向上します。

【取組の方向性】

- 広域的な交通利便性の向上が期待される路線であり、かつ事業としての採算性が比較的高いことから、優先度の高い路線とします。
- 事業中の神奈川県東部方面線（相鉄・JR直通線、相鉄・東急直通線）の進捗状況などを踏まえ、事業化に向けて取り組みます。
- 沿線のバスネットワークと合わせた利便性の高い交通体系を構築するとともに、鉄道整備と合わせた駅周辺のまちづくりを検討します。

横浜環状鉄道（日吉～鶴見、中山～二俣川～東戸塚～上大岡～根岸～元町・中華街）

- 市域の主要な生活拠点を結び、横浜市の鉄道ネットワークのより一層の充実が図られる路線です。
- 横浜駅を中心とした放射状の鉄道路線を短絡し、災害等による輸送障害発生時の代替経路が確保されます。
- 市域の主要な生活拠点を乗り換えなしでつなぐことにより、人の流れの増加、業務圏・商圈の拡大などが期待できます。

【取組の方向性】

- 全線の整備により市域の一体化や交通利便性の向上が期待されますが、多額の費用を要することから長期的に取り組む路線とします。
- 鉄道のネットワーク機能や効率的な運営を確保するために、まずグリーンラインやみなとみらい線の隣接区間から検討を進めます。
- 事業性をさらに高めるための、鉄道整備とまちづくりの連携方策や沿線の交通需要を喚起するための方策などを検討します。

東海道貨物支線の旅客線化等（桜木町～品川方面）

- 京浜臨海部の各地域を結ぶ新たな鉄道ネットワークを形成する路線です。
- 東海道軸が多重化され、並行する鉄道路線の混雑緩和や災害等による輸送障害発生時の代替経路が確保されます。
- 京浜臨海部と東京都心方面や横浜都心方面を乗り換えなしでつなぐことにより、移動や交流の増加など地域の活性化が期待できます。

【取組の方向性】

- 多くの自治体にまたがる長い路線であり、沿線の土地利用の動向などを踏まえ、長期的に検討を進めていく路線とします。
- 引き続き、沿線自治体等で構成される「東海道貨物支線貨客併用化整備検討協議会」と連携しながら検討を進めます。

【広域的な交通基盤への対応】

羽田空港アクセスのさらなる強化

- 羽田空港は今後も発着枠の増加が期待されるなど、横浜市としても重要な空の玄関口です。
- 羽田空港と横浜都心部をはじめとした市域内とのアクセスを強化することで、国内外からの来街者のさらなる増加が期待できます。

【取組の方向性】

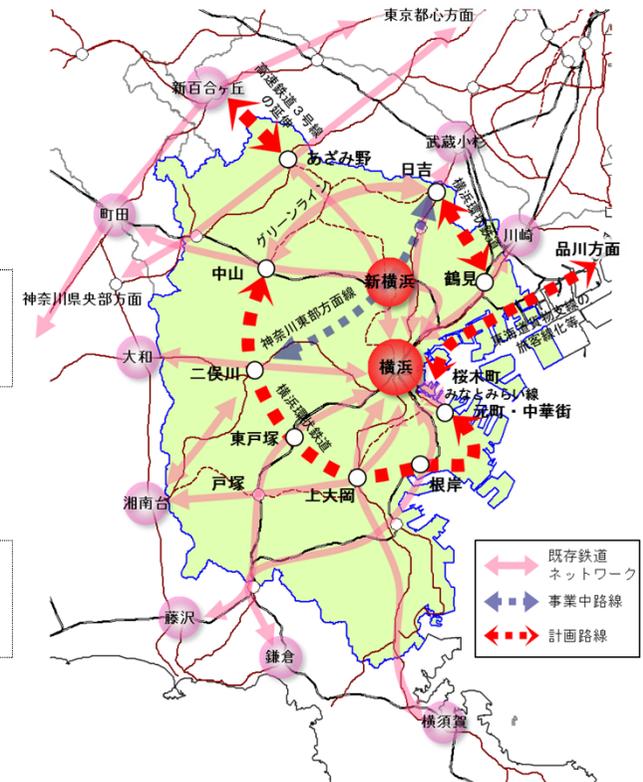
- 羽田空港と横浜方面を結ぶ直通・速達型列車の運行本数増加や早朝・深夜便への対応など利便性向上に取り組みます。
- 利用者の利便性・快適性に配慮するなど、鉄道によるアクセスの質の向上に取り組みます。

新幹線駅アクセスのさらなる強化

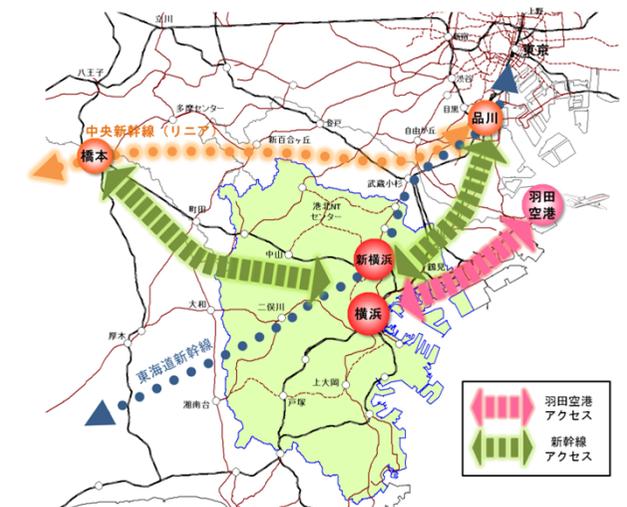
- 中央新幹線は、平成39年の品川～名古屋間開業を目指して環境影響評価の手続きが進められています。
- 東海道新幹線の新横浜駅に加え、将来は中央新幹線の起点である品川駅、神奈川県駅（橋本駅付近）の利用が可能となります。

【取組の方向性】

- 市営地下鉄の急行運転による新横浜駅への時間短縮を図ります。
- 横浜線の根岸線乗り入れ本数の増加などによる、横浜～新横浜間の移動の利便性向上に取り組みます。



【拠点間を結ぶ路線の整備】



【広域的な交通基盤への対応】